

【2023年助成対象団体一覧】 助成総額 1,525,000円

<一般助成>

	団体名	事業名 < >内活動領域	都市名	助成金額
1	一般社団法人 あそびの庭	<居場所づくり事業> 「はらっぱベース」～子ども真ん中・だれでも どうぞの居場所づくり～	二宮町	300,000円
2	特定非営利活動法人 まんま	<乳幼児親子支援事業> 子どもの育ち相談日 ぽれぽれ	横浜市	200,000円
3	特定非営利活動法人 こどもの広場もみの木	<居場所づくり事業> 「こどもの広場」を核にした地域における子育てを 支え合うピアサポートコミュニティづくり (2年目)	横浜市	200,000円
4	特定非営利活動法人 ひだまりの森	<乳幼児親子支援事業> コロナ禍で生きづらさが増した境界線領域の親子 支援「専門相談強化事業」	横浜市	250,000円
5	一般社団法人 グローバル文化協働支援 センター	<学童保育事業> にこにこ学堂クラブ	川崎市	125,000円
6	特定非営利活動法人 育ち合い広場・てとてとて	<居場所づくり事業> 学校に代わるオルタナティブな学び場事業 「まなびこ」	藤沢市	150,000円
			合計	1,225,000円

<課題助成>

	団体名	事業名 < >内活動領域	都市名	助成金額
1	特定非営利活動法人 さくらんぼ	<女性支援> 社会的擁護を出た女子学生のための下宿 「下宿やWith」の規模拡大及び機能強化	横浜市	300,000円
			合計	300,000円

●一般社団法人あそびの庭

事業名：「はらっぱベース」～子ども真ん中・だれでもどうぞの居場所づくり

助成金額：300,000円

応募事業概要：地域の産前産後の保護者や不登校小中学生が参加しやすい
居場所をつくる事業

講評：子どもまんなかの「はらっぱベース」の考え方、大切にしている8つのまな
ざしに共感する市民が増え、自然、人とのつながりから大人も自分らしく暮
らし、生きていくことが幸せだと感じられる社会づくりに共感しました。地
域の貴重な環境を活かした、遊び、体験、交流を軸とした市民活動のこれか
らの展開に期待しています。

助成事業報告：2023年度は「はらっぱベース」を128日間オープンし、延べ4,095人が
来場。活動2年目になり、不登校児童生徒の来場数が前年の倍以上に増え、
現在は1日10人前後がこの場所で過ごしています。少し学校へ行くよう
になった子がいたり、友だちの輪が広がっていく様子が見えたり。安心して
過ごすことのできる居場所が、子どもたちの自信につながり、子どもたちを
元気にしていくことができると実感した1年間でした。



● 特定非営利活動法人まんま

事業名：子どもの育ち相談日 ぽれぽれ

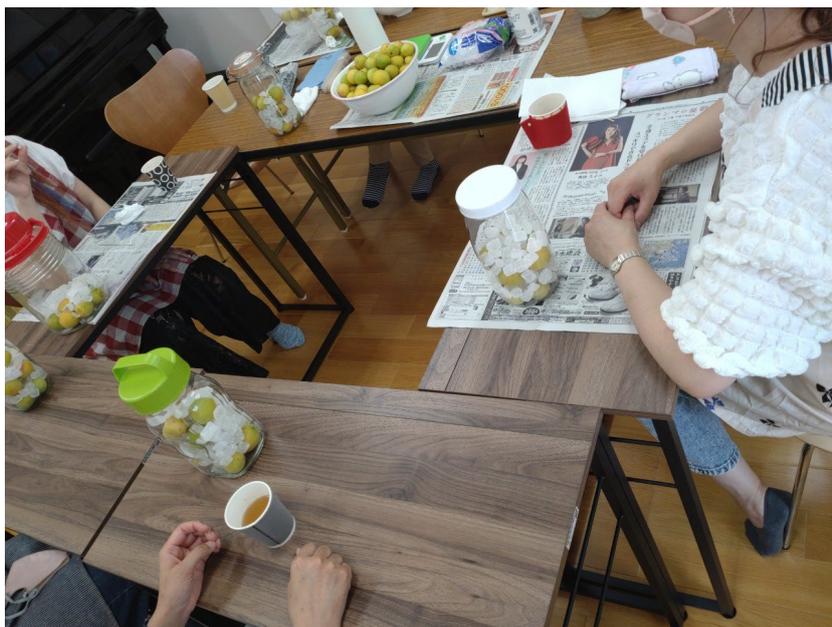
助成金額：200,000円

応募事業概要：子どもの発達の不安や子育ての悩みに対するピア相談を
子育てひろばで行う事業

講評：核家族化が進む中、特に子育て期の親たちは疎外感や孤立感を感じている。そんな時に地域で親子をサポートする活動は必要であり日本国の喫緊の課題でもある少子化対策にも寄与している。地域のコミュニティーの構築とネットワークづくりを応援したい。

助成事業報告：これまで団体が行ってきたピア相談員による個別相談に加えて、地域で気軽に悩みを話せる居場所として「学齢期の親子の居場所 ぽれぽれカフェ」を団体の施設内にある「シェアスペース@eru。」にて開催しました。

季節の手仕事やものづくり等、相談がなくても参加しやすい環境設定をすることで、潜在的なニーズや、困り感への早期対応、乳幼児期からその先の学齢期にもつながる「切れ目のない支援」ができるようになりました。



● 特定非営利活動法人こどもの広場もみの木

事業名：「こどもの広場」を核にした地域における子育てを支え合う
ピアサポートコミュニティづくり（2年目）

助成金額：200,000円

応募事業概要：こどもの広場で研修等を実施し多様性を認め合う
インクルーシブ保育を実践する事業

講評：昨年度助成を活用して、地域の親子に開かれた取組みを実践されたことを評価しました。今年度は、親同士が互いに学び合うピアサポート研修の充実に引き続き助成させていただきます。ピアサポートコミュニティづくりを通して、インクルーシブな共同保育の価値を確認し合い、自主保育活動を続ける力が蓄えられていくことを期待しています。

助成事業報告：子どもとつくる保育の実践は、親同士が互いの子育てを支え合うピアサポートのしくみを確立。地域の子どもたちの遊びの会を毎月実施し、野外で遊ぶ子ども場を参加者が主体的に求め、つながりが生まれた。障害のあるなしにかかわらず誰もが一緒に楽しむことが出来る布絵本の価値に気づかされ、子どもが主体の保育を追求することは、すべての多様な子どもの人権を守る社会をつくることにつながると確信した。神奈川の自主保育団体の交流も実現した。



● 特定非営利活動法人ひだまりの森

事業名：コロナ禍で生きづらさが増した境界線領域の親子支援「専門相談強化事業」

助成金額：250,000円

応募事業概要：生きづらさを抱える親を対象に専門相談の利用料を免除する事業

講評：コロナ禍の影響により経済的・精神的に大きな影響を受けている子育て中の保護者への支援は、非常に重要と考えています。生きづらさの背景にはそれぞれの事情や状況があり、一様ではありません。一つ一つ丁寧に寄り添い対応していく必要があります。「専門相談強化事業」により、多くの保護者、子どもたちの「心」に希望の道が開ける事を期待しています。

助成事業報告：支援が必要であっても生活困窮などで相談しづらい状況の親対象に公認心理師等による専門相談利用料を減免し、相談につながるきっかけをつくりました。コロナ禍の影響を受け経済的・精神的負担が増している親の利用が8割を占め、当初の予定より25%増の利用となりました。「必要な支援にもつながり、イライラが減り子どもにも当たらなくなった」という声も寄せられています。親を支援することで親子の孤立、虐待を防ぐことを目指しています。



●一般社団法人グローバル文化協働支援センター

事業名：にこにこ学堂クラブ

助成金額：125,000円

応募事業概要：シングルマザーや外国人マザーなど遅くまで働く母親たちの子どもの学習支援や体育、食育を行う「学堂クラブ」事業

講評：保護者と離れている時間を、子どもたちが地域活動に主体的に取り組む時間に充てることで、子どもたちと地域の人々の交流も発展していく。保護者にとってのレスパイトとしての意義もあり、家庭環境の健全化にも寄与する。地域の現実的なニーズに呼応する先駆的な事業であり、応援したいと考えました。

助成事業報告：保護者のレスパイトになりますように、助成金を活用して、無事、バスでの体験学習イベントが実現しました。神奈川県のレストランフェスタ2023、川崎みなと祭り、川崎市国際交流センターインターナショナルフェスティバルに参加し、子どもたちがイベントステージで地域貢献しました！平日の「にこにこ学堂クラブ」は、年間46回実施することができ、宿題サポート、無料塾（PC学習）、体育（ダンス芸術）、みんなで楽しく過ごせました。



● 特定非営利活動法人育ち合い広場・てとてとて

事業名：学校に代わるオルタナティブな学び場事業「まなびこ」

助成金額：150,000円

応募事業概要：学校に行きづらい子どもたちが通うオルタナティブな学びの場を開設する事業

講評：「まなびこ」立ち上げ1年目で一定数の子どもたちが通うようになり、学校とは違う子どもたちの学び合う場が地域に求められていることを感じます。継続して場を開き、見守りや学びのサポート体制を整えていくため、地域の人々と顔の見える協力関係を築き、さらに多くの人に支えられて、子どもの育ち合い・学び合いの環境が充実していくことを応援しています。

助成事業報告：学校が合わない子ども達が、平日昼間の週四日、安心して過ごせる学び場を開いて2年目。安定して場を開き続ける為に、一日に最低2人のスタッフを確保。学習支援や手仕事の講師もお招きし、学びの幅を広げました。在籍公立学校へ毎月出席認定書類を提出し連携することで、親子の安心感へとつながった模様です。一日平均5~6名の子ども達が通い、ひと月で延べ96名、年間延べ1056名（概算）の子どもと学び合うことができました。



● 特定非営利活動法人さくらんぼ

事業名：社会的擁護を出た女子学生のための下宿「下宿やWith」の規模拡大及び機能

助成金額：300,000円

応募事業概要：社会的擁護を出た女性学生に住まいとゆるやかな伴走支援を提供する事業

講評：大学に通う社会的養護出身者は、経済的に頼る存在がない中で学業とアルバイトを両立させていかなければならず、志半ばで学業を諦めてしまう若者も少なくありません。そうした、福祉の支援を受けられる年齢を過ぎ「自立」の名のもとに見過ごされてきた、支援を必要とする若者の生活を支える活動として、大きな期待を寄せています。

助成事業報告：応募当初とは異なる場所（新施設）も含め実施しました。居室を4部屋から9部屋に拡大し、入居者の受け入れを行いました。事業開始当初は3名でしたが、3月時点では8名の女子に対し、生活コーディネーターによる相談対応や同行支援など、自立に向けて伴走をしています。シェアハウスの強みを活かし、入居者同士や外部支援者、ボランティアと、ミーティングやイベントを実施。様々な人との関わりを切らさぬよう進めています。

